

第63回 昭島市新春駅伝競走大会

昭島市の新春を飾る駅伝競走大会が1月7日に行われ、中学生男子の部に44チーム、360名。女子の部に34チーム、255名が参加しました。青空のもと、沿道の皆さんの温かい声援を受けながら13.01キロメートルを6人で継走しました。今年の優勝団体は、昨年に引き続き、中学生男子の部では「清泉中陸上競技部」が、女子の部では「拝島中陸上部」でした。

楽しくて走れた昭島駅伝
清泉中学校二年 相川 竜輝
僕達、陸上競技部は今年、三連覇と大会新を目標にして練習をしてきました。去年二連覇した時は五区として走りまわりました。その時は前に高校生がいて、「抜かしてやる」とがむしゃらに、また、楽しく走ることができました。ですが、今年はアンカーを任せられ、緊張してしまいました。

去年僕も走った五区の横山君から言われた「ファイト！」は僕の緊張を「絶対一位でゴールしてやる！」という気持ちに変えてくれました。漣をもらった時からゴールまで、去年走った時よりも、もっと楽しく、そして短く感じました。沿道には応援してくれる人



がたくさんいて、とても力になりました。特にゴール近くでは、僕の家族や友達がいっぱいいて、緊張感が高まってきた時は、「やっ」という声で応援してくれました。結果は三連覇という目標は達成できましたが、もう一つの大会新には届きませんでした。悔しい気持ちも残りましたが、チームの仲間と一つの目標に向かってがんばることの大切さを実感できた大会でした。清泉中学校がこれからも四連覇、五連覇と、連覇が続いていけるように、今後の練習に取り組んでいきます。



新春駅伝スタートを切る (男子)



新春駅伝スタートを切る (女子)

諦めないことの大切さ

多摩辺中学校一年 中村 綾花

私は今年、初めて駅伝というものを体験した。部活でタイムを計り、出場が決定したその時、私は嬉しさと同時に不安に襲われた。その理由は、私のタイムがチームの中で一番遅いということだ。そして私はチームの足を引っ張ってはいけないという大きな責任を感じた。そのため私は、本番当日まで一生懸命、練習に励んだ。



そして本番当日を迎えた。その日の空は、雲一つ無い青空が広がっていた。みんなが校庭を走り、本番の時間が近づいてきた。緊張感が高まってきた。いよいよ、スタートの「パーン」という音と共に、声が最初に聞こえ、次々と地域の方々の応援の声も聞こえた。そして家族にも応援され、足が疲れていたが、必死に走り続けた。そして最後の角を曲がったところで、四区の選手や顧問の先生がいた。私は顧問の先生にも応援され、四

区に大勢の選手が二区の選手に漣を渡すために一斉に駆け出した。何分か経ち、そろそろ到着する選手のチームの番号が放送され始めた。私はスタンバイのために移動した。二区の人から漣を渡され、私は緊張という言葉から一瞬で解放され、走り始めた。走っていると校長先生の声も聞こえてきた。この経験を忘れずに、これからも色々なことに諦めずに取り組んでいきたい。そして、駅伝は、一人できるとは思っていない。それは、私の所属している部活のバレーボールと同じだと思った。チームで漣をつなぐのは、バレーでボールをつなぐことと同じ。二つとも一人では絶対に成り立たず、メンバー全員が集まって初めて成り立つもの。そのため、自分の成功はチームの成功につながる。だからバレーにおいても、学んだことを生かしてこれからはつなげていきたい。

中学生男子の部



中学の部男子優勝 (清泉中学校)



チーム名	タイム
1位 清泉中陸上競技部 A	45:55
2位 多摩辺中陸上競技部 A	49:51
3位 清泉中陸上競技部 B	49:58
4位 拝島中バスケ部 A	50:21
5位 瑞雲中学校男子選抜	50:28
6位 昭和男バス・ブルドックチキン	52:27

中学生女子の部

チーム名	タイム
1位 拝島中陸上部女子	54:34
2位 拝島中バスケ部	55:24
3位 清泉中学校	55:45
4位 瑞雲中学校女子選抜	56:39
5位 昭和THE・めろんぱんず	57:30
6位 福島中女子バスケット A	57:45



中学の部女子優勝 (拝島中学校)

あいさつは 顔を見て 目を見て 心を見て

あいさつ 運動標語

